

## 別記

様式第1号(第8条、第9条、第12条関係)

## 事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2025年6月20日

(宛先)

滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)  
滋賀県 栗東市 目川611氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)  
松文産業(株)栗東工場 取締役工場長 久保 雄之介滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例第25条第3項 → 第25条第4項  
第27条第1項 → 第27条第2項において準用する同条例  
第26条第1項  
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項

の規定に基づき、  
[事業者行動計画を策定 (変更)  
事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	松文産業株式会社 取締役社長 小泉 綾子
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	福井県 勝山市 旭町1丁目1番56号

## 1 事業者の概要

事業所の名称	松文産業株式会社栗東工場					
事業所の所在地	滋賀県 栗東市 目川611					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	1	1	8	※ 産業分類・細分類名称を記載 高高加工系製造業
事業の概要	原材料(ポリエステル等の素材)に熱やエアを用いて衣料等の糸に加工する。					
従業員の数	47	人	操業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	0	台	熱源設備	11	台
	コンプレッサ	7	台	空気調和設備	23	台
				照明設備	842	台
				その他		

## 2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2019	年度	報告対象年度	2024	年度
	終了年度	2024	年度			

## 3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。



1 CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

松文産業株式会社栗東工場は、モノづくりを通じて社会に貢献し製造業として、環境に配慮した製品の提供に努めて参ります。

1. 事業活動を通じて環境負荷を最小限にする仕事の仕組みを作り、環境の保全と汚染の予防に取り組みます。

①使用により、CO<sub>2</sub>排出を削減できる製品の提供に努める。

②省エネ、省資源に取り組みます。

③廃棄物の削減と再資源化に取り組みます。

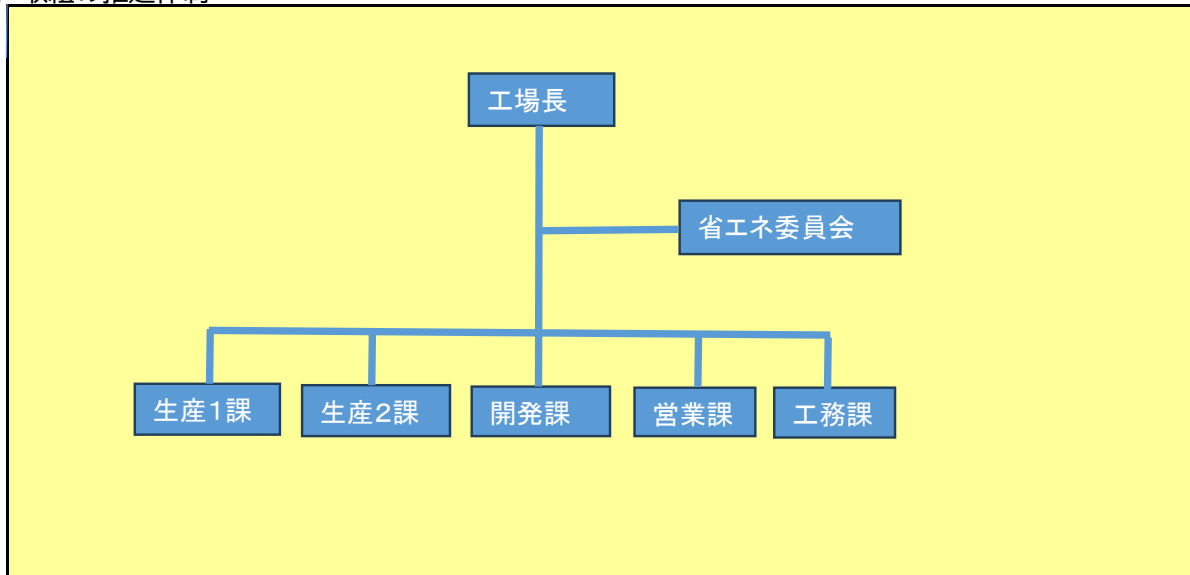
2. 事業活動を通じた環境保全活動を定期的に見直し、継続的な改善に努める。

3. 環境保全に関連する法規制を遵守します。

4. この方針を具現化し維持すると共に、全従業員に周知徹底します。

5. この方針を広く公開し、適切な情報提供に努める。

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組

※平成10年4月 照明設備の見直し

常夜灯の台数を見直し、それ以外の照明は、スイッチを取り付け必要以外は、全て消灯→これらの対策で電気使用量を削減する。

※平成12年3月 コンプレッサーの見直し

これまでの設備(75kW×3台を廃棄)は吐出量に関係無く稼働し運転ロスが大きい→更新後(220kW×1台)圧縮機が2段式で吐出量に応じて自動で調整する事が出来、効率良く運転する事が出来電気使用量が削減出来る。 ※平成

12年5月 エア配管の見直し

メイン配管をループ化にする→事により全ての場所で効率良く安定したエア供給ができ全体の圧力も低く設定する事が出来電気使用量が削減出来る。

※平成12年8月 エア配管の見直し

全ての配管を高圧用(75kW×2)と低圧用(220kW×台/75kW×1台/45k×1台)に分離する→この事により圧力0.1MPa(全体の36%)下げる事が出来電気使用量が削減出来電気使用量を削減する。

※平成17年3月 コンプレッサー見直し

オールインバータ化に更新→この事により負荷に応じた運転が可能(0~100%)この事により電気使用量が削減出来る

※平成18年3月 仮燃り機更新

オールインバータ化に更新この事により負荷に応じた運転が可能(0~100%)この事により電気使用量が削減出来る

## (第2面)

## 4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	エア配管の分離(高圧用・0.6MPa以下/低圧0.5MPa以下)	年度事	全体の80%完了
2	設備導入	照明器具の更新(LED照明や省エネ効果の高い物)	年度事	全体の95%完了
3	設備導入	設備の更新時、省エネ効果の大きい機器を優先する。	年度事	継続中
4	設備導入	コンプレッサー設備の更新(オールインバータ化する。)	年度事	2022年12月完了(100%)
5	設備導入	設備の老朽化に伴う運転ロスの削減(オーバーホール等)	年度事	計画予定の60%

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

## (3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価

## (4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		(2020)年度	(2021)年度	(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	1,688	1,054	1,423	1,570	1,335	1,478
温室効果ガス総排出量	t-CO <sub>2</sub>	3,464	1,433	2,061	1,878	2,156	2,477
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
CH <sub>4</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
N <sub>2</sub> O	t-CO <sub>2</sub>						
HFCs	t-CO <sub>2</sub>						
PFCs	t-CO <sub>2</sub>						
SF <sub>6</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
NF <sub>3</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
エネルギー等原単位の推移		0.678	0.887	0.749	0.706	0.732	0.742

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1			
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ( )	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			( )年度	( )年度	( )年度	( )年度	( )年度
再エネ電気設備での発電量	kWh						
上記のうち自家消費量	kWh						